

2日 金曜

列王Ⅱ

18:13 ヒゼキヤ王の第十四年に、アッシリアの王センナケリブが、ユダのすべての城壁のある町々に攻め上り、これを取った。

18:14 ユダの王ヒゼキヤは、ラキシユのアッシリアの王のところに人を遣わして言った。「私は過ちを犯しました。私のところから引き揚げてください。あなたが私に課せられるものは何でも負いますから。」そこで、アッシリアの王はユダの王ヒゼキヤに、銀三百タラントと金三十タラントを要求した。

18:15 ヒゼキヤは、【主】の宮と王宮の宝物倉にある銀をすべて渡した。

18:16 そのとき、ユダの王ヒゼキヤは、自分が【主】の神殿の扉と柱に張り付けた金を？ぎ取り、これをアッシリアの王に渡した。

18:17 アッシリアの王は、タルタン、ラブ・サリス、およびラブ・シャケを、大軍とともにラキシユからエルサレムのヒゼキヤ王のところへ送った。彼らはエルサレムに上って来た。彼らは上って来ると、布さらしの野への大路にある、上の池の水道のそばに立った。

18:18 彼らが王に呼びかけたので、ヒルキヤの子である宮廷長官エルヤキム、書記シェブナ、およびアサフの子である史官ヨアフは、彼らのところに出て行った。

18:19 ラブ・シャケは彼らに言った。「ヒゼキヤに伝えよ。大王、アッシリアの王がこう言っておられる。『いったい、おまえは何に拠り頼んでいるのか。』」

18:20 口先だけのことばが、戦略であり戦力だということか。今おまえは、だれに拠り頼んでいるのか。私に反逆しているが。

18:21 今おまえは、あの傷んだ葦の杖、エジ

プトに拠り頼んでいるが、それは、それに寄りかかる者の手を刺し貫くだけだ。エジプトの王ファラオは、すべて彼に拠り頼む者にそうするのだ。

18:22 おまえたちは私に「われわれは、われわれの神、【主】に拠り頼む」と言う。その主とは、ヒゼキヤがその高き所と祭壇を取り除いて、ユダとエルサレムに「エルサレムにあるこの祭壇の前で拝め」と言った、そういう主ではないか。

18:23 さあ今、私の主君、アッシリアの王と賭けをしないか。もし、おまえのほうで乗り手をそろえることができるのなら、おまえに二千頭の馬を与えよう。

18:24 おまえは戦車と騎兵のことでエジプトに拠り頼んでいるが、私の主君の最も小さい家来である総督一人さえ追い返せないのだ。

18:25 今、私がこの場所を滅ぼすために上って来たのは、【主】を差し置いてのことであろうか。【主】が私に「この国に攻め上って、これを滅ぼせ」と言われたのだ。』」

ユダの王ヒゼキヤは前の王アハズが、不信仰によってアッシリヤに依っていたことには倣わず、「アッシリヤの王に反逆(18:7)」しました。それでアッシリヤはユダに攻めて来たのです。

これは外交的には失敗のようにも見えます。將軍ラブ・シャケは大軍を率いて、勝利を確信し、ヒゼキヤの信仰も主の名も侮り、果ては「主が私に『この国に攻め上って、これを滅ぼせ。』』と言われたのだ。」などと、ユダの信仰心をばかにする発言までしています。

小国ユダにとっては、神に従ってアッシリヤに背くことは、圧倒的不利な状況を覚悟しなければ



ならないことでした。それでもヒゼキヤは神への従順を選んだのです。

私たちにとっても同じことが起こるでしょう。実は神の福音はこのような人々、すなわち信仰のゆえに不利状況を選択した人々によって、世界に伝えられて来たのです。日常の小さなことから殉教に至るまで、信仰のゆえに喜んで失う人々が、福音の担い手なのです。

主の愛のご計画のために、時には失うことを喜びとしつつ、みこころに従ってみましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあつて何を実践しますか？

